

沖縄・辺野古の大浦湾

表題と写真は、中日新聞 2 月 27 日夕刊「グラフ」である。美しいカラー写真であり、2 月 16 日レポートに続いて辺野古の大浦湾を取りあげたい。こんな美しい海を破壊してしまうのか。

「海に潜り、まず目に飛び込んできたのは 50 メートル先まで続くシンボルの『アオサンゴ』。海底に敷いた巨大な絨毯はコバルトブルーの水で彩りを増しているよう。

さらに、進むとハマサンゴに群がるクマノミの姿が。ふんわりした綿の上を飛び跳ねるみたいに、気ままに泳ぐ魚群を見ると、“クマノミ城”の言葉がぴったりくる。埋め立て計画はアオサンゴもクマノミ城も含まれていない。が、反対派は工事の影響で海流が変わり生態系が崩れかねないと懸念する。大浦湾に魅せられ、15 年前に和歌山から沖縄に移り住んだ地元ダイビングショップ経営、岩本俊紀さん(43)もその一人。『こんなきれいな海が死ぬ姿は見たくない』と話す。

辺野古の米軍基地前ではほぼ連日、移設反対の叫び声や座り込みが続く。昨年の知事選でも民意はノーだったが、国は移設方針を変える気はない。故郷の豊かな自然を壊されてまで米軍基地を押しつけられる沖縄。札幌から旅行で訪れていた小学生は座り込みの様子を見て『基地問題の苦しみを初めて知った』。その小さな瞳はうるんでいた。」

写真右下は、キャンプ・シュワブのゲート前で座り込み、基地建設に抗議する現地のお年寄り。左下は米軍基地のフェンスには抗議の横断幕が張られ、訪れた人が埋め立て地の沿岸部を眺めている様子だ。「海保いつから海の敵」という横断幕が現地の状況を伝えている。

(2015年3月3日)

